議 事 録

会議名	平成27年度 第1回寒川町都市計画審議会		
開催日時	平成27年5月28日（木）午前9時30分～10時40分		
開催場所	議会1会議室		
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	<p>委 員：綾木委員、二ノ宮委員、千葉委員、山田（政）委員、杉崎委員、藤沢委員、加藤委員、山田（修）委員、後藤委員、鈴木委員、内野委員、福島委員</p> <p>事務局：都市建設部－常盤部長 都市計画課－廣田課長、米山副主幹、杉崎技師 拠点づくり部－新倉部長 倉見拠点づくり課－伊藤課長、皆川副主幹、鈴木主査 田端拠点づくり課－金子技幹、野地主任主事</p> <p>〔欠席者：中村委員、島村委員、杉山委員〕</p> <p style="text-align: right;">傍聴者 7名</p>		
議 題	<p>1. 会長、副会長の選出について</p> <p>2. 第7回線引き見直しに伴う案の申出について（報告）</p>		
決定事項	<p>会 長：加藤仁美委員</p> <p>副会長：杉崎隆之委員</p>		
公開又は非公開の別	公開	非公開の場合その理由（一部非公開の場合を含む）	
議事の経過	<p>1. 開会 （常盤部長）</p> <p>どうも、おはようございます。本日は、皆さん、大変お忙しいところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>少しちょっと時間早いですが、ただいまより平成27年度第1回寒川町都市計画審議会を開催させていただきます。私は、本日の会議で会長が決まるまでの間、司会を務めさせていただきます都市建設部長の常盤と申します。よろしくお願いたします。</p>		

失礼ですけど、ここからは座って説明させていただきます。まず初めに、会議に入ります前に配付資料の確認をさせていただきます。会議次第でございます。次に、資料1-1といたしまして「寒川町都市計画審議会条例」、資料の1-2といたしまして「寒川町都市計画審議会委員名簿」、資料の2といたしまして「説明用スライド資料」でございます。資料の3-1といたしまして「茅ヶ崎都市計画整備、開発及び保全の方針」、資料3-2といたしまして「茅ヶ崎都市計画都市再開発の方針」、資料3-3といたしまして「茅ヶ崎都市計画住宅市街地開発の方針」になります。

また、本日追加資料といたしまして、第7回線引き見直しに係る都市計画説明会概要をお配りしております。過不足等はございますでしょうか。

続きまして、これより町長から委員の皆さんに委嘱状の交付をさせていただきます。町長が皆さんの席にまいりますので、恐れ入りますが、その場でお立ちしていただきますようお願いいたします。

《委嘱状交付》

(常盤部長)

ここで、木村町長よりご挨拶申し上げます。

(木村町長)

改めまして、皆さん、おはようございます。5月とはいえ、連日暑い日が続いております。ぜひ皆様方には体調管理にご留意を願いたいなと思っております。

ただいま委嘱状を交付させていただきました委員の皆様方におかれましては、大変ご多忙の中ご出席をいただきまして大変ありがとうございます。

さて、本日も報告させていただきます「第7回線引き見直し」に伴う案でございますが、都市計画区域のマスタープランであります「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」や市街化区域と市街化調整区域を区分する「区域区分」などを定める、まさに都市計画の根幹をなすものでございます。

昭和45年に当初線引きを行ってから現在まで、都合6回の線引きの見直しを行っておりまして、平成22年に最終告示を行った第6回線引き見直し、前回ですが、最終的に田端西地区が特定保留に、また倉見地区が一般保留に位置づけられておるところでございます。

今回の第7回線引きにおきましても、再度、田端西地区を特定保留に、また倉見地区を一般保留に位置づける内容となっております。なお、詳細につきましては後ほど担当より説明をさせていただきたいと思っております。

本日は、本審議会委員の皆様、神奈川県に案の申し出を行う前段といたしましてご報告という形で計画内容のご説明を行わせていただきまして、今後の審議

に向けてのご理解をいただきたく開催をいたすものでございます。どうぞよろしくご協力のほどお願い申し上げます。

(常盤部長)

ありがとうございました。では、ここで委員の皆様より自己紹介をお願いいたします。

なお、本日、横浜国立大学副学長の中村委員、寒川町商工会長の島村委員、藤沢土木事務所長の杉山委員は所用により欠席されております。

それでは、資料1-2の寒川町都市計画審議会委員名簿に従いまして、綾木委員さんから順次お願いいたします。

(委員自己紹介)

(事務局職員自己紹介)

(常盤部長)

なお、町長は所用によりここで退席させていただきます。

(町長退席)

(常盤部長)

それでは、議題に入りますが、正副会長が決まりますまでの間、引き続き事務局のほうで進めてさせていただきます。

本日の出席委員さんは12名で、寒川町都市計画審議会条例第5条第3項の規定により、過半数の委員さんが出席されておりますので、本日の会議は成立要件を満たしておりますことをご報告いたします。

それでは、議題の(1)でございます。会長、副会長の選出についてですが、寒川町都市計画審議会条例第4条第1項の規定により、委員の互選によることとなっております。例年推薦いただく形で選任されておりますが、推薦の方法でよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

(常盤部長)

皆さん、ご賛同いただきましたので、推薦の方法にしたいと思います。

初めに会長ですが、どなたか推薦をお願いいたします。

(綾木委員)

よろしいでしょうか。東海大学の加藤仁美様にお問い合わせできないでしょうか。

(常盤部長)

ただいま加藤委員とのご推薦がございましたが、会長を加藤委員にお願いすることよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

(常盤部長)

それでは、加藤委員、よろしくをお願いいたします。

次に、副会長でございます。どなたかご推薦をお願いいたします。

(藤沢委員)

よろしいですか。どうでしょう。議会としても責任を感じておりますし、少し休憩いただいて、ちょっと相談させていただいて。

(常盤部長)

そうですか。ちょっと休憩といたしますので。

すいません、皆さん、しばらく休憩をいたします。

(休 憩)

(常盤部長)

再開いたします。

(藤沢委員)

どうも貴重な時間をありがとうございました。

杉崎委員をお願いすることでよろしいでしょうか。

(常盤部長)

ただいま、杉崎議員をご推薦でございましたが、副会長を杉崎委員をお願いすることでよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

(常盤部長)

それでは、正副会長が決まりましたので、加藤会長、杉崎副会長につきましては、正副会長の席にご移動をお願いいたします。

それでは、ここで、正副会長よりご挨拶をお願いいたします。

まずは、加藤会長、よろしくをお願いいたします。

(加藤会長)

はい、わかりました。ただいまご指名にあずかりました、東海大学建築学科の加藤と申します。私は大学のほうでは都市計画といいますかまちづくりのことで、それから都市と制度のお話とか、それから建築などを教えています。

寒川町さんとのご縁ですけれども、思い起こしますと、たしか高度地区の規制のときにご相談されまして、それでかかわり始めたのが最初かなと思っております。

実は、会長をお引き受けしていいのか随分躊躇いたしまして、前回の会長さんですね、中村先生に続投いただきたかったところですがけれども、副学長になられて、非常に寸暇も惜しいという形で、大学のほうのお仕事をなさっているということでお引き受けさせていただいた次第でございます。寒川町さんには卒論のことでもいろいろお世話になっておりますし、全体の計画も非常に関心がありますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

(常盤部長)

続きまして、杉崎副会長、よろしく願いいたします。

(杉崎副会長)

町議会から選出されました杉崎隆之と申します。大変経験豊富な、また諸先輩方がいる中で副会長に指名していただきまして、本当にありがとうございます。会長をしっかりと補佐しながら頑張ってまいりたいと思いますので、皆様のご協力をよろしく願いいたします。

(常盤部長)

ありがとうございました。

さて、寒川町自治基本条例の施行に伴い、町が開催いたします審議会及びこれに準ずる会議については、原則として公開することとなっております。したがって、本審議会においても傍聴希望者は個人情報に関する審議事項を除いて傍聴できることとなっております。

本日、7名の傍聴希望者がお見えになっておりますが、入室いただいてよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

(常盤部長)

ありがとうございます。また、審議会等の議事録につきましては、これまでどおり議事録を作成いたしまして、委員の皆様にご確認いただいた後にホームページ等で公開させていただきますので、あわせてお願いいたします。

それでは、これから傍聴者の方に入室いただきます。

(傍聴者入場)

(常盤部長)

それでは、これからの進行につきましては加藤会長にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

(加藤会長)

はい、わかりました。

それでは、早速でございますけれども、次第でございます報告事項の「(1) 第7回線引き見直しに伴う案の申し出について」に入りしたいと思います。まず、事務局のほうからご説明をお願いいたします。

(説明)

(加藤会長)

ご報告ありがとうございました。

ただいまの事務局のご説明に関しまして、何かご質問ありましたらお願いしたいと思います。最後にご説明ありましたけれども、町の手続ということで、県に

申し出る案の内容についてのご説明だったわけですが、それについてのご意見ということになります。いかがでしょうか。ご質問等でも結構です。お願いいたします。

(藤沢委員)

まず、ただいま説明がございましたけれども、事務的変更の3カ所ございますね。これの面積はおよそおわかりでしょう。ご報告いただきたいと思います。

(加藤会長)

3カ所の面積ですか、事務的面積がどのくらいかということですか。

(藤沢委員)

スライド16です。

(加藤会長)

16、17、18。

(藤沢委員)

そう、ずっと続いていますけども。

(米山副主幹)

1カ所目の宮山地区が約0.75ヘクタールになります。岡田八丁目地区が約0.29ヘクタールになります。大曲地区につきましては、約0.05ヘクタールになります。宮山地区は増です。岡田地区、大曲地区につきましては減になります。

(加藤会長)

よろしいでしょうか。

(藤沢委員)

はい。それで、ここは、もう審議の対象外で自動的にになっているという解釈でよろしいのでしょうか。

(廣田課長)

そのとおりでございます。関係する茅ヶ崎市と神奈川県と調整して、事務的変更が可能ということで確認させていただいているところでございます。あと、地権者が官地ということもございます。

(加藤会長)

いずれも官地であるということにして、自動的に変更されるということになります。

(藤沢委員)

続いてよろしいですか。

スライドの7ですが、第7回線引き見直し（寒川町地域）のポイント、それで一番下に、保留フレーム制度と、保留フレームの制度の説明がございますけれども、特定保留がありますね。特定保留は位置と区域を明示するということですよ。一般保留は位置を明示しません。そこのところが違いだ、違いの

大きな点はそこのところいらいだということですが、特定保留というのは、これは区画整理が義務づけというか、決定されているものじゃないんですか。今までの地域の説明会の中では、特定保留となったらば、これは区画整理だと。そして組合施行と。組合施行は義務づけになっているのかどうか知らないけども、特定保留のやはり第一の性格というのは区画整理だということを言われているんですが、そういう点はどうなんですか。

(加藤会長)

事務局、お願いします。

(廣田課長)

特定保留と一般保留の、まず違いから。特定保留につきましては、位置と区域を明示できるというところまでの土地利用計画に対する地権者などの同意の状況、農林漁業調整を含めての関係機関協議がそこまで整っているの、位置と区域を明示できるということでございますが、では、そこまで整った中に、手法として、土地区画整理事業が決まっているのかという部分が2点目のご質問だったと思いますけれども、それについては、最後の事業に対する同意状況というのがございます。この事業に対してという部分については、整備手法、事業手法ですね、どうするのかという部分から検討されなければならない部分ですので、そういった意味でいえば、土地区画整理事業が特定保留イコール土地区画整理事業として手法が決まっているという部分ではございません。

(加藤会長)

よろしいでしょうか。はい。

(藤沢委員)

よろしいですか、続いて。

(加藤会長)

はい。

(藤沢委員)

スライド9ですけど、ここに人口の推計が出ていますけども、平成22年と37年。これは、区域内の人口ですけども、茅ヶ崎市と寒川を分けた数字というのはお示しいただけませんか。

(廣田課長)

まず、人口でいえば、平成37年の寒川町分の人口といたしましては4万6,500人。県から配分された人口ということになります。

(加藤会長)

これ、平成37年ですね。22年はありません？

(米山副主幹)

すいません、よろしいですか。22年の寒川の人口が、22年に実施した国勢

調査の数字を使っております、4万7,672人となります。

(加藤会長)

町では減っているということですね。どうぞ。

(藤沢委員)

質問、続けてよろしいでしょうか。

(加藤会長)

産業の規模についてはよろしいですか。

(藤沢委員)

この中で、再々、倉見地域のツインシティ、まちづくりということは、新幹線新駅誘致ということが相当うたわれている。今、町は大体、通称倉見新駅といいます。東海道新幹線新横浜と小田原の中間の駅というのは大体今、倉見新駅というような、仮称ですけれども、そこの計画を進めております。そして、町が相当主張しているのは、リニアが27年に営業開始します。倉見もそれに合わせて営業開始をとということを幾度か言っております。町長自体も言っている。そうだとすると、この人口というのは、これじゃおかしいんじゃないのかね。JR東海にしても、それから神奈川県新幹線新駅期成同盟会にしても、東海道新幹線倉見新駅が営業開始するには、営業の投資に乗降客9,500から1万1,000人ということ強く言っているわけですよ。それは39年ですよ。これは10年先を見越した数字だとすると、37年で4万6,500で新駅の実現ということはおかしいじゃないですか。片方は盛んに新駅を主張しながら人口の中では全く、こういう、今よりもむしろ少ないような感じで、これ、自体おかしいんじゃないですかね。全く私は、地元とするとこういう説明というのは受け取りませんよということで来ましたが、どうなんでしょう。

(加藤会長)

この統計的な数値のお話ですけれども、9ページの人口推計の件ですね。この件についてのご質問なんですけれども、どのようにご説明されますか。

(廣田課長)

具体的には、整開保の冊子のほうをちょっと見ていただきたいと思いますけれども、12ページになります。これは、茅ヶ崎都市計画区域で、冒頭もご説明いたしましたとおり若干の伸びがあることは事実でございます、その12ページの区域区分の決定の有無ですね、その(2)区域区分の方針とありまして、アの人口の推計の四角のくくりの下に記述されている部分が答えになるかと思えます。

平成37年の都市計画区域内人口につきましては、平成26年3月に示された「社会環境の変化に伴う課題について」というところについては、神奈川県総合計画審議会の計画推進評価部会というのがございます。そこにおける地域政策

圏別の推計人口などや国立社会保障・人口問題研究所の推計人口等を踏まえて、平成22年の国勢調査データをもとに推計を行ったということでございます。

これについては、市街化区域内人口は保留された人口を含むものとするという考え方のもとに設定されているということでございまして、区域内といたしましては若干の伸びがあることから、ツインシティ倉見地区についても住居系という記述がなされるものというふうに考えています。

(米山副主幹)

参考までに、社人研、国立の社会保障・人口問題研究所が示している平成37年の寒川町の人口は4万5,600人とされています。若干その数字より約900人ほど県のほうでは、今回、37年の人口は多めに示されているというような内容になっております。

以上です。

(加藤会長)

ただいまのご回答の中で、神奈川県の変化に伴う課題についてという中で、想定人口ですか、人口の推計が出ているということなんですけれども、この中には、倉見地区のような再開発といいますか、その辺の話は当然、当然というか、盛り込まれていない、推計値になっているということだと思いますけれども、そういう統計上の数値というご理解をいただければよろしいのかなと思いますけど、よろしいでしょうか。事務局のほうで何か。

(廣田課長)

それでよろしいかと思えます。

(加藤会長)

ということになっているようでございます。

(藤沢委員)

そういう地域政策圏別の推計とか社会保障とか人口問題、それだけで、この後にもずっと続いていますけれども、倉見まちづくりの内容は整開保の中へ含まれているということは、私はおかしいと思うんです。統計ではこうですけども、実際には、どうしても、この中で新駅を主張する以上は、黙って人口3,000人は必要なわけでしょう。現在平塚ではもう既にということは、新駅を稼働させるには日常9,500から1万1,000人、そのためには寒川では人口3,000人を新たに導入する、平塚も3,000人、だからこそ平塚ではダイワハウスが既にもう都市計画決定も順調に進んでいる、何カ月か、100日たたないうちに決定されるだろうけれども、平塚ではそういう段取りになっている、もちろん就労人口が寒川では4,000人、平塚は6,000人というふうに、ちゃんと枠組みを決めて、平塚は既に3,000人の受け入れの体制を、もう都市計画決定が承認されることになっているわけですよ。

寒川では、それを全然やらないで、この中を見てみると、新駅を進める、進めるということばかり書いてある。後で申し上げたいけれども、既に先行整備区域か何か知らないけれども、それは区画整理だということまで書きちゃってあるんですよ。何でこんなものをつくったんだか。おかしいですよ。

(加藤会長)

今のお話、保留フレームのお話ですね。位置づけと申しますか、特定保留から一般保留に後退したという言い方はあれですけども、なっているという、その辺のところからご回答いただければと思います。

(廣田課長)

位置づけとしては、第6回線引きでの一般保留、この区域ですね。この区域というのは倉見地区の位置づけについては変わってございません。というのは、熟度、達成の度合いが、先ほども申し上げました土地利用の方向性の段階で、委員からもありました先行整備区域という話がありましたけども、おおむね新駅を中心とした24ヘクタールについての部分を指しておると思うんですけども、それについては、平成22年9月にたたき台として地元にお示しした段階のものでございまして、そのたたき台が、今回の整備、開発保全の中で追認、含まれてしまうというところまでのものではございません。引き続き事業課が地元の皆様方とお話し合いを続けるということの方向性には変わりございませんので、今回のこの整備、開発保全の方針の都市計画の決定をもって全て事業手法も区画整理事業に決まってしまうなどということはございません。そして、この区域につきましては、その進捗、一般保留のレベルなんですけれども、計画的な市街地整備の見通しが明らかになった段階で随時編入できる制度でございまして、随時編入できる前段に改めまして、先ほどスケジュールのところでお示した都市計画のより具体的な区域区分の変更、用途地域、地区計画、そして事業手法が何になるのかという部分も含めて、都市計画の改めの手続に入ることになりますので、今回はその方針を定めるまでの範囲ということを決めるという部分でございまして。

(加藤会長)

よろしいでしょうか。

(藤沢委員)

そういう説明は、私は、その程度までは受け入れられるとしたらば、そうだとしたらば、なぜ16ページでもって土地区画整理事業ということを出しているのかと。上から4段目ですね。寒川町における倉見地区の。

(加藤会長)

整開保の16ページでしょうか。

(藤沢委員)

そう、16ページの住工混在地区は、土地区画整理事業、これは24ヘクタールのところを指しているわけですよ。なぜこういう区画整理と、地元へ来ては、まだ手法は決めていませんとか、時たまは区画整理だという表現をしていたり、上から4段目ですよ。何で区画整理ということをしてしまうんだ。

地元へ来ては、面整備ということは言っていますよ。それで、今聞けば、これは基本ですよと、方針ですよと、整開保の基本と方針をこの場で皆さんで承認されたら、今度はこの人たちは、この人たちと言っては失礼だけど、町は既に整開保でも、権威ある皆さん方が承認された、方針を決められた区画整理ですよということを強く言われたら、地元の者は発言できなくなるんです。

今までは面整備という表現で来たものを、何でここで区画整理と入れるんだか、そここのところが私らにはわからない。たえず、まちづくりではこういうことが繰り返されているから、地元は、たまたま都計審へ出れるんだらば精いっぱい主張してきなさいよと。私らは尻をはたかれて来ているものですから、ひとつ、的確な答弁を願いたいと。

(加藤会長)

すいません、事務局のほうでお願いします。

(廣田課長)

今、委員がおっしゃられた部分、改めて確認させていただきます。整開保の冊子のほうになります。16ページの上から4行目の部分ですね。「本区域のうち、寒川町における倉見地区の」という記述の部分で、土地区画整理事業等と書いてございます。したがって、これは区画整理事業というのは例示として挙げている部分でございまして、等という部分で表記されていることをもって、土地区画整理事業と絞って表記しているわけではございません。

冒頭、先ほど申しましたとおり、この整開保の方針の決定をもって、あたかも事業が土地区画整理事業だと自動的に決まるということではないということを改めて申し上げさせていただきます。

(加藤会長)

よろしいでしょうか。

(藤沢委員)

それほど余裕を持たせるんだらば、何で土地区画整理事業等と書いたのか。面整備と書くだけでよろしいんじゃないですか。面整備と、ちゃんと要件は足りていくわけですよ。

(加藤会長)

じゃ、事務局お願いします。

(藤沢委員)

満たされているはずですよ。何で、強いて区画整理を入れてくるんだか。地元

へ来れば、区画整理とは決めていませんよと断えず言っているが、ここでこう
いうことをされるということは、やはり町は今までやってきたなし崩しを狙って
いるんだなと。ほかに書きようがあったはずですから。

(廣田課長)

この部分の表記につきましては、神奈川県決定という部分でございまして、神
奈川県全体でこの整備、開発保全の方針を定めております。その中の用語の取り
扱いの部分になるんですけれども、そういった面整備の事業手法を表記する場合
については、基本的基準の中にもございますけれども、これを定める場合の基本
的基準、知事から示されている部分ですね、それに基づいての表現となって、土
地区画整理事業等という記述で統一するということになっておりますので、そう
いった意味からすれば、改めて申し上げますが、これをもって、整備手法が、倉
見地区については土地区画整理事業だというふうに決まるものではございませ
ん。

(加藤会長)

よろしいですか。

(藤沢委員)

先ほどは、例示としてという言葉があった。例示としてこういうふうにした
にすぎないと言われた。今聞いてみれば、神奈川県決定、多分、神奈川県と、そ
れから期成同盟会とでこういうふうにもう決めているんだと言わんばかりの表
現だったということです。

(加藤会長)

それはない……。面整備の代表選手として土地区画整理事業という名前が入っ
ているだけで、「等」というところはすごく重要だと私も思っています。ですので、
用語の統一ということでしょうか、手法ということであっているということ
だけかなと私は解釈しておりますけれども。

(綾木委員)

すいません、ちょっとよろしいでしょうか。7ページの田端西地区が特定保留
で、第6回の線引きと同様だという。倉見地区においても一般保留ということで、
第6回の線引きのときと同じだということで、この間、同じということは進んで
いないということですよ、言うならば。

一方、田端西地区の対岸の茅ヶ崎側ですね。茅ヶ崎側は、先ほどちょっとご説
明になりましたけれども、もう既に萩園地区のまちづくりはもう進んでいると。
もうそこは、先ほど線引きでいいますと、都市計画区域にも入ったということ
ですよ。隣がそういうふうに進んでいますということで、倉見地区はどうなるか
わからないですけど、この第6回の線引きと今回同じ、据え置いたというところ
が、私、ちょっときつい言葉で何も進歩なかったんじゃないかと言ったんですけ

ど、何か変化があるんじゃないかと思うんですけど、今のご説明された中で、ちょっとまだ私、わからない点というか、ちょっと補足されることがあったら。そのところがもう少しという。

例えば倉見地区が、一般保留が特定保留に、もう少し熟度が上がって、なぜできなかったのかというのは、僕はさっき疑問に思っていたんですけど、そこら辺、何か事務局のご意見があるようでしたら聞きたいんですけど。もう少し理解を深めたいと。

(加藤会長)

倉見地区のまちづくりの進行状況ということですね。いかがでしょうか。お願いします。

(新倉部長)

事業課のほうの私のほうからちょっと説明をさせていただきます。

まず最初に、田端西地区でございます。田端西地区につきましては、第6回線引きの中で、準備会といいまして、地元組織ができ上がっております。先ほど来、面整備につきましては、あくまで行政が一方的にはできずに、ある程度住民の合意をもって進めることができるというようなことで、その住民合意を今目指しているところです。田端地区につきましては、事業協力者が今入りまして、その住民合意についてより詳細なお話し合いをさせていただいているところでございます。

倉見地区につきましては、先ほど来出ているんですが、平塚の大神地区の都市計画決定がされまして、今後平塚が進んでいくというような形になっております。寒川側につきましても、昨年、倉見大神線、道路、橋ですね、都市計画決定に向けた手続をさせていただいて、ちょっと今まだ途中の段階ではあるんですけど、少しずつではあるんですけど、歩調を合わせていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

(加藤会長)

よろしいですか。はい、ありがとうございます。

ほかはいかがでしょう。じゃ、お願いいたします。

(内野委員)

ちょっと先ほどの確認なんですけども、人口統計の件で、県のほうは4万6,500人、37年度ですね、国立のほうは4万5,600人という数字なんですけども、これは先ほどの倉見の新駅の件も加味してやっている数字なのか、それともそれは全然抜きにやっている数字なのかという確認なんですけども。

(加藤会長)

再度お願いいたします。

(米山副主幹)

先ほど、整開保の表の下にあるとおり、県の総合計画の中で湘南圏域というところまで、もう1回、整開保の12ページの人口推計のAの表のところなんですけど、神奈川県総合計画審議会の中で圏域ごとに、寒川は湘南圏域になるんですけども、そこで割り振った数字をさらに線引きの中で各市町村ごとに割り振った数字ということで、計画を加味したものではないというふうに説明受けております。

(内野委員)

じゃ、計画に入ってないということですね。はい、わかりました。

それともう1点よろしいですか。その下の産業規模の件なんですけども、工業出荷額と卸小売販売額、これも茅ヶ崎と寒川一緒になっていると思うんですね。寒川分の数字というのはわかるんでしょうか。

(米山副主幹)

神奈川県の方から各市町ごとに割り振られて示されているのは都市計画区域内人口のみで、この工業ですとか産業の部分については、茅ヶ崎都市計画区域としてしか示されておられませんので、この内訳というのはちょっとないのが現状で、町として、独自にこのぐらいだというのはつくって提出したものはあるんですけど、それに対して県が、こういう形に決めましたというので、その内訳についてはちょっと示されていないのが現状で、ちょっとご報告できなくて申しわけないんですけども、そういった状況です。

(加藤会長)

はい、ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

(藤沢委員)

よろしいでしょうか。結びに近いようにいたします。

倉見としては、私は倉見だけの代表じゃないつもりですけども、地域としては、今、部長の方からもありましたけど、田端の場合は前回の線引きでいわゆる関東農政が認める3分の2以上に達していたということです。

(加藤会長)

それは合意がですか。

(藤沢委員)

それは、たとえ特定保留をする場合には、この文書の中にもありますけれども、農林漁業との調整、その農林漁業との調整というのは、差し当たって関東農政局との打ち合わせだろうと。

倉見では、町長との6項目の申し合わせの2番目に、整備手法については改めて検討しますということが書かれてあるということと、そして地元では区画整理というふうに決めつけられること。「等」と入れればよいということじゃなくて、

区画整理というのは、どこまでも嫌うからこそ特定保留を避けたんです。大きな2つの目的があって、特定保留も嫌った、そして何よりも区画整理という文字を嫌った。

その点からいくと、それを承知でいながらどうして寒川町の都計審の中でこういうふうに表示をされるということは、私らは受け入れられないということだけ、もう回答はどうでもいいですよ、地元へはちゃんと報告をいたすようにはしようと思っていますので。これはどこまでいっても受け入れられないということです。

(加藤会長)

ご意見として何うということ。ちょっとこの茅ヶ崎都市計画区域、とにかく県の決定でございますので、中身については表現上のいろんなことがあったのかなというふうに思いますけれども。

すいません、ご意見はすごくよくわかりました。

(藤沢委員)

どこまでこの席で、これは単なる表現にすぎないということなのかどうか。これは後日になれば、もう書いちゃってあるから、これは県が決めたことですからと言われるに決まっていると。事例にすぎないという言葉は、この席だけだろうと思うんですよ。実に残念ですよ。地元としたら、これはもう。

(加藤会長)

事務局のほう、何かございますか。

(廣田課長)

この部分につきまして、スライドの資料の13ページ、ここからまた改めてご説明させていただきますけれども、倉見地区の記述が赤線で書いてありますけれども、「町域北部・・・」と書いてありまして、計画的市街地整備の検討を進めるとあります。その見通しが明らかになった段階で、農林漁業との必要な調整をまた行うという部分。それらのハードルをクリアして初めて市街化区域へ編入できるということになります。じゃ、そのハードルというのは、お話し合いとか、ここの中で決められるのかどうかということではなくて、改めまして、その手続というのが都市計画の決定手続という部分でございまして、最後のスケジュールのところでご説明したような都市計画のさまざまな手続を経て初めて決められるものでございます。

したがいまして、この方針を決定することをもって、それらが全て決められてしまうということではございません。この旨、最後に申し上げさせていただきます。

(加藤会長)

ということのようでございます。はい、お願いします。

(綾木委員)

すいません、またこれちょっとわからなくなってしまったんですけど、倉見地区をちょっと例にとっていきますと、第6回が一般保留で、第7回が一般保留ですね。その後の段階的に、もっと計画の熟度が上がってきますと、特定保留ということに、例えば、仮にですよ、第8回線引きでなるんでしょうか。それとも、一般保留のままで、いきなり市街化区域に編入ということになるんでしょうか。そこら辺は、何かありましたらちょっと教えていただきたい。

(加藤会長)

じゃ、事務局のほう、お願いします。

(廣田課長)

特定と一般とありまして、今、倉見地区、一般です。これを最終的な目的としては市街化区域に編入して、当初の目的であるまちづくりを実現するということになるんですけども、これが今、一般ということになって、それが特定という段取りを踏まないで最終的に編入できないのかというご質問ですが、そうではございません。熟度の、達成度の違いなだけであって、その熟度が高まれば、特定に位置づけるとかいう段階を踏むことなしに、要は、先ほど申しました計画的市街地整備の検討を進めて農林漁業との調整が整えば、その段階で都市計画の手続を踏んで即座に編入できるということになります。それが随時できるというのが保留の制度でございます。

(綾木委員)

ありがとうございます。

(加藤会長)

ありがとうございます。

そのほかございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、この件に関しましてここで切らせていただきまして、(4)その他に移りたいと思います。

その他ということで、委員の皆様から何かございますか。あるいは、事務局のほうで何かございましたらお願いいたします。

(鈴木委員)

今、いろいろ、7回の線引きのことを言われたんですけども、要は、私、倉見に住んでいまして、藤沢さん言っておられるように、いろんな心配というか、住民の方、皆さん心配しているんですね。どういうわけか、新幹線の関係は、平成9年に決まってからずっときていますよね。その間、全然進捗していないということで、それはやはり住民が不安が多いんですね。それで行政側として、もう少し頻繁に、足しげく、地域に来て話し合っただけであれば、もっと熟度が進むんじゃないかなと。例えば駅の関係ですと、今回24ヘクタールと言っておられますけれども、そこに住んでいる人たちが、もしそこで開発になった場合に、

	<p>そこにいられるのかという心配しておられる方が結構いられるんです。そういうときに、私たちは、どこに行ったらいいんだろう。それこそ、その地域の近辺に行ければ、先ほどの人口動勢じゃないですけども、減らずに、そのまま横に移れば人口は減らないわけですよ。</p> <p>そういう形を考えたときに、よくよく相談していただければもう少し進むんじゃないかなと。今までできていますと、皆さん、諦めているか、どうなるのかな、そのうち何とかなるだろうとか、関心がだんだん薄れていってしまうんですよ。それには、やはり、もっともっと、及び腰じゃなくて積極性を持って役所の方も来ていただければと思います。</p> <p>(加藤会長)</p> <p>貴重なご意見、ありがとうございます。倉見について、情報をもう少しオープンにさせていただいて、まちづくりを進めていただきたいということでございます。ありがとうございました。</p> <p>それでは、事務局のほうでは何かございませんでしょうか。</p> <p>(廣田課長)</p> <p>特にございません。</p> <p>(加藤会長)</p> <p>わかりました。それでは、進行のほうを事務局にお返ししたいと思います。どうもご協力ありがとうございました。お願いいたします。</p> <p>(常盤部長)</p> <p>どうも会長、ありがとうございました。本日予定しておりました案件は、全て終了いたしました。</p> <p>本日は、大変お忙しい中ご出席いただきまして、まことにありがとうございました。これをもちまして、平成27年度第1回寒川町都市計画審議会を終了させていただきます。どうも大変お疲れさまでした。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;">— 了 —</p>
<p>配付資料</p>	<p>資料 1 茅ヶ崎都市計画道路の変更（神奈川県決定）</p> <p>資料 2 茅ヶ崎都市計画道路の変更（寒川町決定）</p> <p>資料 3 都市計画に対する意見書の要旨と都市計画決定権者の見解（寒川町）</p> <p>参考資料 説明用スライド資料</p>
<p>議事録承認委員及び 議事録確定年月日</p>	<p>出席委員全員により承認（6月18日確定）</p>